

事業所名

あんあんclass南平岸ルーム

支援プログラム

作成日

令和7年

3月

1日

| | | | | | |
|-----------|--|--|--|------|------------------|
| 法人（事業所）理念 | iNeJaponGroupでは“心から安心してわが子を託すことができるかどうか”という視点で、時代のニーズに合わせてアップデートしながら、“安心・安定”のあんあんとして、常に理想的な療育の実現を目指す。 | | | | |
| 支援方針 | 1・一人ひとりに合わせた個別支援 2・様々な療育や体験を通じた自己肯定感の向上 3・安定した生活リズムの形成 4・就学、就園に向けた支援・サポート 5・課外活動で健康な心と身体づくりと社会体験 6・関係機関との連携した支援 | | | | |
| 営業時間 | 9時 | 0分から | 18時 | 0分まで | 送迎実施の有無 あり なし |
| 支 援 内 容 | | | | | |
| 本人支援 | 健康・生活 | 毎日、決まった日課の流れを設定する事で、生活に見通しを持ち、落ち着いて生活をしたり、自発的に身の回りの事に取り組む事により、自ら健康で安全な生活を作り出す事を支援します。その中で、様々な活動や遊びを通して、基本的な生活習慣を獲得できるよう、衣類の着脱・食事面や排泄等の支援にも取り組んでいきます。 | | | |
| | 運動・感覚 | 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や運動・動作を粗大運動、微細運動など様々な運動遊びや活動を通して、改善及び習得を図ります。視覚・聴覚・触覚等の感覚を十分に活用できるように様々な遊びを通して支援していきます。感覚や認知の特性を踏まえ感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行います。 | | | |
| | 認知・行動 | 視覚や聴覚などの感覚から、様々な情報を収集して認知機能の発達を促す支援をします。また情報を取得し、そこから自分で必要な情報を選択し、行動に繋げる事が出来るように一連の認知過程の発達を支援します。認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を処理出来るように支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮します。特性や感覚、認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障がいの予防や適切行動への対応の支援をします | | | |
| | 言語 コミュニケーション | 様々な遊びや活動等の体験と言葉に意味を結びつける事で、指差し・身振り・サイン等用いて、環境の理解や意思の伝達出来るよう支援をします。また、言語の取得や自発的な発語を促す支援もします。一人ひとりの特性を把握し、それぞれの特性に合わせた読み書き能力の向上される支援をします。言語聴覚士による、より専門的な言語訓練を日常的に行い、語彙の増幅や構音機能の改善などの支援をします。 | | | |
| | 人間関係 社会性 | 信頼関係を基盤として周囲の人と安定した関係を形成する為の支援を行います。指導員や友だちとの関わりを深める中で、自分で気持ちや情緒の調整出来るように支援します。集団に参加する為の手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加出来るように社会性の発達を支援します。園外活動を通して、友だちや指導員との関係を深めたり、公共のマナーや交通ルールなど、社会の中で生きていく為に必要なルールを知り、身につける事が出来るように支援します。 | | | |
| 家族支援 | 利用児童やきょうだいなどの家族での関わりや身の回りの困り事などについての相談を受け、家庭環境の安定化を支援する（来所相談や電話など） | 移行支援 | 幼稚園や保育園、学校等と情報共有を行い、スムーズな移行を支援する 姉妹ルーム（放課後等デイサービス）への移行支援 地域の放課後等デイサービスの情報収集と発信 | | |
| 地域支援・地域連携 | 保育園や幼稚園や学校訪問や見学を通して関係性を構築し、児童の情報共有を行う。必要であれば訪問支援を活用するなど積極的に取り組む 他福祉サービスとは保健士や相談室を中心に連携を図っていく | 職員の質の向上 | 毎月の職員研修やルーム内での周知研修（内2回は虐待・身体拘束に関する研修と感染対策委員会研修） 外部研修への積極的な参加及び外部講師を招いての研修 | | |
| 主な行事等 | 夏祭り・グループ合同運動会・茶話会・親子レク・クリスマス会・お誕生日会・園外遠足など | | | | |